

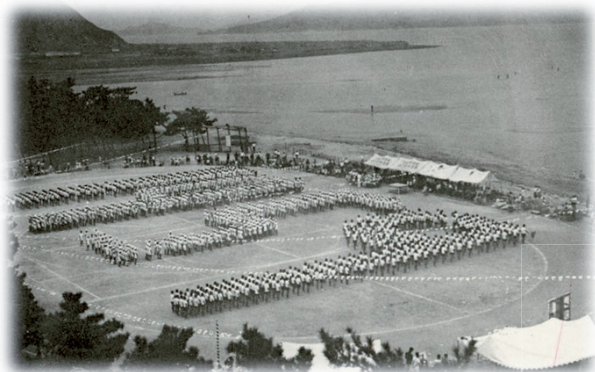
サザエさん発案の地・百道海岸



百道海水浴場跡碑(西新2丁目)

よかトピア通りは、以前は海岸線で、ここには大正7(1918)年に開場された百道海水浴場がありました。昭和30年代頃まで市民のレジャースポットとして賑わっていましたが、都市化の進行による水質悪化でいつしか遊泳禁止になりました。百道海水浴場には20軒ほどの海の家があったということです。

サザエさんの作者の長谷川町子氏は、小さい頃に父親の仕事の都合で福岡市に引っ越して来られました。父親が亡くなり、一家は叔父を頼って一旦東京に移り住まれましたが、戦禍を逃れるため、昭和19年に再び福岡市に戻ってこられました。福岡での新しい家は西新にあり、家の裏が百道海岸でした。町子氏は妹と浜辺を散歩しながらサザエさんの構想を練られ、昭和21年に福岡の地元紙「夕刊フクニチ」に連載を開始したのが漫画「サザエさん」です。



百道小学校から見た百道海岸 昭和34年



白砂青松の百道海岸 昭和29年



ピオネ荘 昭和34年



百道海水浴場 昭和30年

百道海岸にあった海の家「ピオネ荘」は、西新2丁目にある百道海水浴場跡碑から西方向に約300mのよかトピア通り沿いにありました。

海水浴場閉鎖後の「ピオネ荘」は、大相撲九州場所開催時の花籠部屋、二子山部屋の宿舍、大学の部活動の合宿所やコンパ会場になったりしていましたが、この場所で青春時代を謳歌したオールドファンに惜しまれつつ、平成15年にその幕を閉じました。



百道海岸にあった海の家「幸陽軒」